

# 第6回 フクシマ交流会開催!

# 国労九州

復第 90号

福岡市博多駅東  
3丁目9番3号  
ニコニコハイブ 1003  
092-483-1515  
発責 千々岩隆  
編責 西山泰三



浪江駅前にある モニタリングポスト 0.214 μSv を表示している。(平常値は 0.04 μSv)

11月24日〜25日にかけて第6回国労フクシマ交流会が開催されました。2011年3月11日に起こった東京電力福島第一原発「フクイチ」の事故は「絶対に起こらない」と言われていたものが、地震と津波でいともたやすく原子炉が崩壊しました。7年8月が経過してもメルトダウンした溶融燃料「デブリ」の場所さえ分からず、原子炉廃炉も何十年かかるか分からない状態が続いています。

国労は「フクシマの事故を忘れない」として毎年全国各地の原発立地地域エリア・地本から参加した組合員で視察と学習 交流を行っています。今回、九州本部からは水流執行委員が参加しました。福島駅に集合し、バスで浪江町、帰還困難地域の双葉町、大熊町を視察。常磐線復旧工事中の夜の森駅、再開された浪江駅・富岡駅も視察しました。途中飯館村では、除染した土を入れたフレコンバッグが山のように積み上げられていましたが、それでもここ2年でもかなりの量が撤去され、中間保管場所へ移されたそうです。しかし除染されたのは平地だけで、山林の除染は全くの手つかずと聞かされました。浪江町では、新築した家やアパートが見られ確実に復興が進んでいることがわかりましたが、帰還困難地域に入ると状況は一変し、震災から時が止まったかのような



震災から時が止まった 双葉町新山地区商店街

街並みが表れました。帰還困難地域では車の駐車や窓を開けることは禁止され、脇道へ入ることも許されず、ガードマンとバリケードで封鎖されています。国道6号線を南下中フクイチから10キロ圏内は、バス内に設置した線量計がずっと鳴りっぱなしという異様な状態が続いていました。

・組織拡大に全力をあげよう!

・大胆に国労加入を訴えよう!

・各機関で対策会議を開催しよう!

・組織拡大の統一行動を展開しよう!



高校平和大使の 鈴木真宝さん!

視察が終わり、郡山市内でのわき市議会議員の狩野光昭さんから「原発の現状と労働問題」の学習会を開催しました。2日目は、地元国労水戸地本から常磐線復旧工事の取り組み」の報告。その後、高校生平和大使の鈴木真宝さんからの報告。自治労双葉町職員組合の橋本靖治さんからは「双葉町の現状と課題」について、福島県教職員組合の瓶子高裕さんから「原発震災から7年双葉郡の小中学校の現状と課題」についてそれぞれ講演をいただき、学習と交流を行いました。